

第一章 明治二十一年～三十年 (一八八八～一八九七)

明治二十年代の音楽界と東京音楽学校

音楽取調掛における八年間の音楽教育の基礎作りは急速なテンポで成就した。明治十八年(一八八五)七月二十日に行われた最初の全科卒業生による披露演奏会はまさにその実績を物語るものであった(『東京芸術大学百年史 東京音楽学校篇』第一巻二一九頁参照)。

明治二十年(一八八七)、この音楽取調掛を母体として東京音楽学校が創立し、正規の教育を受けた音楽家が誕生するに至って音楽会の数は激増する。その推進役となったのは明治十九年に結成された「日本音楽会」であった。この会は大日本教育会を本拠とし、その会員である伊澤修二、シャルル・ルルー(一八五一～一九二六、フランス人陸軍軍楽隊の指導者)および帝国大学教授らが発起人となり、鹿鳴館に事務所を置いて音楽活動を行った。「日本音楽会」が企画する音楽会は会員制をとり、演奏者は、東京音楽学校の教師・生徒はもちろんのこと、宮内省雅楽部伶人および軍楽隊の面々を中心であった。演奏会場は鹿鳴館、毎晩のようにならぬ舞踏会のワルツやクワドリールの調べと合せて鹿鳴館は西洋音楽のメッカとなっていた。「日本音楽会」はまた音楽の個人指導も斡旋していた。

明治二十三年(一八九〇)五月、奏楽堂を付設して東京音楽学校の新校舎が現在地に落成した。奏楽堂はわが国最初のコンサートホールである。東京における洋楽の演奏会は鹿鳴館から次第に奏楽堂へ移行するようになり、演奏会数がさらに増加した。四～五頁の表は明治二十三年八月から二十五年まで全国で開催された洋楽中心の音楽会状況である。

『音楽雑誌』が当時調査した記事にもとづいて作成した。

この表から明治二十年代の音楽界が非常に活気に満ちていたことを読みとることができる。

二十年代も終りに近い二十七年十一月二十四日、奏楽堂でグノー作曲「ファウスト」第一幕が上演された。これは日本赤十字のチャリティ・コンサートとして企画された音楽会における最後の出し物であったが、わが国でオペラというジャンルを認識する大きな要因となった。ファウストがイタリア公使館員ブラッチャリーニ、メフィストフェレスがオーストリア代理公使クーデンホーフェ伯爵、管弦楽伴奏は宮内省雅楽部、東京音楽学校は合唱を受け持った。その模様を十二月一日付の英字新聞「The Japan Weekly Mail」は次のように報じている。

CONCERT IN TOKYO.

Nothing could have been more successful than the concert given in Tokyo on the 24th ultimo, in aid of the Red Cross Society of Japan. Despite most inclement weather, the large hall of the Uyeno Academy of Music was filled to overflowing by an appreciative audience of foreigners and Japanese, who repeatedly showed their delight at the excellence of the performance by loud and long sustained bursts of applause. Her Imperial Highness Princess Kanin honoured the concert by her presence, and the front rows were occupied by the members of the Foreign Corps Diplomatique and many distinguished Japanese. Yokohama also was largely represented, the long journey and the rain seeming to have exercised no deterrent effect. Without referring to each item of the programme in detail, we may say that the rendering of "Tardi si fa" by Miss Bloxham and Mr. Braccialini was admirable; that Miss Bloxham's singing of "Orphée avec son Lute" enchanted her audience, and that Miss Koda's violin solo, "Scene de

『音楽雑誌』に見る音楽会（明治23年～25年）

演奏会名	年月日 時間	場 所	洋 楽										邦 楽					音楽以外				
			P			O			Vn				他	Vn 箏	琵琶 薩	能 平	狂 管		雅 舞	明 清	他	
			独	連	独	連	独	連	合	独	合	伴										吹
宮中演奏会	M23. 8. 16:30-	宮中千草の間	○					○														
小集会	[9] 10:00-16:00	群馬：共寿館							○													
軍艦遭難者義捐大音楽会	9.30 19:00-22:00	京橋：厚生館															○					
貧民救恤慈善音楽会	9. 下旬	京都：祇園館	○	○	○	○		○	○	○												六斎, 祇園はやし
第8回同好会	10.18 13:00-	上野：奏楽堂	○	○	○	○		○	○	○												
第3回唱歌演奏会	11. 8 18:00-20:30	本郷：第一高等中学校	○	○				○			P, O	○										
国会開院前祝音楽会	11. 27	大阪：岸和田倶楽部							○	○												
帝国議会議開院祝賀音楽会	[12] 14:00-	上野：奏楽堂		○					○	○	P, 管	○										
第12回日本音楽会	12. 6 14:00-	上野：奏楽堂						○	○	○	管	○										
第9回同好会	12.23 15:00-	上野：奏楽堂	○	○				○	○	○												
音楽会	12.27 14:00-	本郷：中央会堂			○			○	○	○												
慈善音楽会	M24. 1. 7 19:00-	大阪：青年会館	○					○														
慈善音楽会	2. 7 19:00-	神戸：医会堂	○	○	○	○		○	○	○												六斎
同好会	3.14 14:00-	上野：奏楽堂	○	○	○	○		○	○	○			○									
第13回日本音楽会	4.25 午後	上野：奏楽堂	○					○	○	○	P	○										○
帝国音楽協会	5. 2 13:00-	芝：弥生館							○	○												
東京女子手芸学校交友音楽会	5. 9 13:00-	芝：弥生館				○				○												○
音楽会	5.23 19:30-	本郷：中央会堂				○		○		○												
音楽会	5.29 20:00-	横浜：パイナップル																				
北越音楽会	5. 下旬	新潟：三條町								○												
女人教会10周年祝会	6.11	築地：善永寺									○											
慈善音楽会	6.20 午後	麴町：帝国ホテル	○	○				○	○	○												
東京音楽学校卒業式	7.11 15:00-	上野：奏楽堂	○	○				○	○	○	○											
幼稚唱歌会	7.19 7:00-	牛込：大村幼稚園								○												
三楽大合奏	10.15	雅楽所																				
慈善音楽会	10.24	京橋：厚生館																				
芝玉女学校音楽会	10.25 13:00-	神田：錦輝館																				
高知県音楽会	11. 1	高知市中学校																				
慈善音楽会	11. 3 14:00-	京橋：厚生館		○					○	○												
震災義捐音楽会	11. 7 18:00-	神田：錦輝館								○												
基督教青年会婦人親和会	11.11 18:00-	本郷：中央会堂	○																			
震災義捐音楽会	11.11 18:00-	本郷：中央会堂	○																			
震災追悼慈善音楽会	11.12 17:00-	麴町：帝国ホテル																				

演奏会名	年月日 時間	場所	洋			樂			邦					音楽以外					
			P	O	Vn	P	歌	吹管	他	Vn	琵琶	能楽	雅楽		明清				
			独連	独連	独合	Vn	独合	伴	他	箏	薩	平	能		狂	管	舞	清	他
同好会震災義捐音楽会	11.15 13:00-	上野：奏楽堂	○	○	○														
楽友会慈善音楽会	11.17 20:00-	鹿鳴館							○	○									
日本音楽会	11.28 13:00-16:30	上野：奏楽堂				○			○	○									
広島慈善音楽会	12.10,11 18:00-	広島：階行社	○	○	○				○	○									
水難救済音楽会	12.22 19:30-	鹿鳴館				○			○	○									
音楽大集会	M25. 1. 3	高知：師範学校			○														
養育院慈恵音楽会	1. 4 -21:00	愛宕館							○	O・Vn									
長幼音楽会	1.19	浜町：日本橋倶楽部								Vn・O									長唄
震災義捐慈善音楽会	[1]	松本：神道分局				○			○										
音楽会	[1]	福島：川俣高等学校							○										
慈善音楽会	3.20 8:00-22:00	仙台：仙台座																	八雲琴, 義太夫, 踊, 網渡り 手品, 幻燈
神遊大演芸会	4. 3 11:00-19:00	神田：錦輝館																	筑紫琴, 須磨琴, 一絃琴, 富本, 常磐津, 清元, 義太夫, 長唄
一三五会音楽演奏会	5. 1 14:00-	浅草：松葉館跡	○	○		○													
盲啞学校慈善音楽会	5. 8 14:00-	小石川： 指ヶ谷盲啞学校							○	O・Vn									P・Vn・箏
春期音楽会	5.12 16:00-	京橋：厚生館	○																
婦人レプタ会慈善演奏会	5.14 13:00-	京橋：厚生館																	
誕辰会	5.21 13:00-	築地：本願寺				○													
雅楽大演習会	5.23 9:00-	牛込：雅楽稽古所																	
第15回日本音楽会	6. 4 16:00-19:00	小石川：後楽園																	
高等商業学校音楽会	6.10	高等商業学校	○						○	○									
楽友会	6.11 13:00-	牛込：雅楽稽古所																	
東京音楽学校卒業式	7. 9 15:00-	上野：奏楽堂	○	○															
幻燈会	7.18 20:00-23:00	京都：第17中립小学校																	
第5回明治女学校卒業式	7.19 19:30-	明治女学校																	
音楽矯風会第1回演奏会	9.11	新潟：下高田																	
福田会慈善音楽会	11.10 午後	銀座：美呂教会	○																
一三五会演奏会	11.11 18:00-	神田：錦輝館	○																
招魂祭	11.12	仙台																	
学友会	11.27 13:30-	上野：奏楽堂	○	○		○													
慈善会	[11]	芝浜御殿	○							P, 管									
孤児慈善会	[11]	横浜：山手公会堂																	

〔注〕 洋楽の音楽会を中心とし、邦楽のみのは除いた。

〔略語〕 P—ピアノ, O—オルガン(リードオルガン), Vn—ヴァイオリン, P・Vn—ピアノとヴァイオリンの合奏, 歌—唱歌を含む, 吹—吹奏楽, 管—管弦楽, Vn・箏—箏曲をヴァイオリンと箏で合奏したもの, 箏—箏曲(尺八, 胡弓も含む), 薩—薩摩琵琶, 平—平家琵琶, 狂—狂言, 管(雅楽)—管絃, 舞—舞楽, 明清—明清楽, 月—月琴, 独—独奏, 連—連弾, 合—合奏, 伴—伴奏楽器(中村仁美 作成)

Ballet” was not only perfect in execution but also full of genuine artistic feeling. This young lady promises to attain a high reputation. It is most pleasant to see, too, that the Musical Academy continues to prosper under purely Japanese control. The instrumental and vocal performances of the pupils showed that the true spirit of music continues to direct their labours. It need scarcely be said that the piece of the evening, the First Act of Faust, was looked forward to with the utmost expectations. They were not disappointed. Mr. Braccialini's beautiful tenor, at once powerful and sweet, and Count Coudenhove's mellow bass belong to an order of voices rarely heard among amateurs. The acting, too, of both gentlemen was really first rate. Mr. Braccialini's rendering of the conflict of emotions that precedes *Faust's* surrender to Satan, and Count Coudenhove's general conception of *Mephistopheles*, as well as his by-play, were masterpieces that would have earned high applause on any stage. Immense difficulties had to be grappled with in preparing this first representation of the kind that has ever been put upon the stage in Japan, and had it not been for the untiring energy and patience of Mr. Braccialini, supplemented by the talent of Professor Eckert who arranged the difficult music of Faust for the Orchestra of the Imperial Court and trained the pupils of the Academy to sing the chorus, which they did thoroughly well, the task must have been abandoned as hopeless. To both of these gentlemen, and to Madame Sannomiya who, according to her invariable wont where charity is concerned, spared no pains to secure a favourable result, the gratitude of the public is due. We must not forget, too, the charming young lady who played the rôle of *Marguerite*, presenting an image lovely enough to have turned the heads of a dozen Fausts. The universal feeling as the curtain fell was one of regret that the delightful performance had been so short, and of hope that the labour of organizing it might not deter another effort in the same line. An incident

that rendered the evening specially memorable was the announcement of the taking of Port Arthur. Official news, received just before the concert commenced, was given out, after the first piece, by Mr. Braccialini in French and Mr. Ito Yukichi in Japanese, eliciting from the audience a burst of cheering that had a genuine national ring.

この上演は言ひまでもなく大成功を収め、わが国の洋楽史をかざる一駒であった。

この時代、わが国の洋楽界を教育の面からもリードしたのは東京音楽学校の外人教師 R・デイトリヒおよび R・V・ケーベル博士である。彼らの指導のもとに橋絲重、頼母木ロマ、幸田幸、瀧廉太郎らが巣立っていった。東京音楽学校(二十六年高等師範学校の付属となる)は、このように続々輩出される意欲的な音楽家たちの要望によって今日の音楽集団的な二つの演奏グループ、学友会(明治二十五年)と同声会(明治二十九年)を創設した。両グループは留学先のウイーンから帰国した幸田延を加えて盛んな演奏活動を行った。当時、東京音楽学校が主催する公開の演奏会は卒業演奏のみで、この学友会・同声会が催す定期的演奏会は、三十一年からはじまる東京音楽学校定期演奏会のさきがけであった。この頃の演奏会は邦楽と洋楽をとりまぜたプログラムで構成するのが普通であった。このような組み合わせは日本人音楽ファンにいっそうの親近感を与え、また各国公使館員など外国人聴衆を大いにたのしませたといつて可い。また東京音楽学校の活動はもとより日清戦争の前後、日本を訪れた多くの外国人演奏家によって音楽的趣味が一段と向上したことも歴史上見逃せない重要な現象である。

(一) 幸田延は明治二十二年四月、音楽専修者としては初めて文部省より海外留学を命じられ、ボストンおよびウイーンに留学した。二十八年十一月帰国。